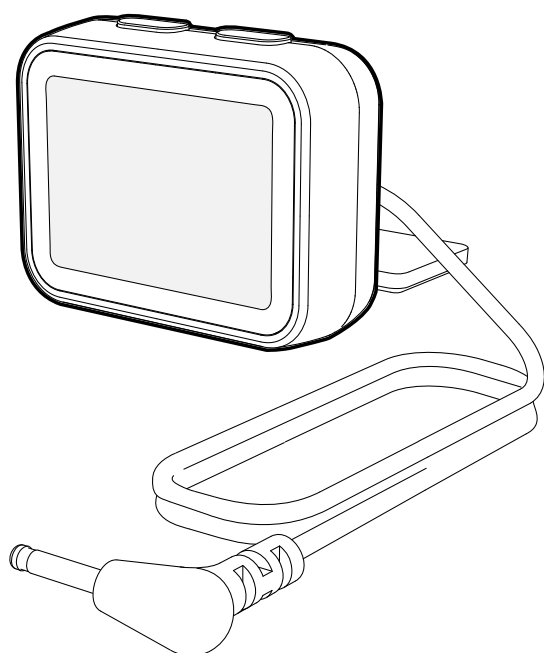


取扱説明書 KD-258 車用空気圧センサー

同梱品一覧

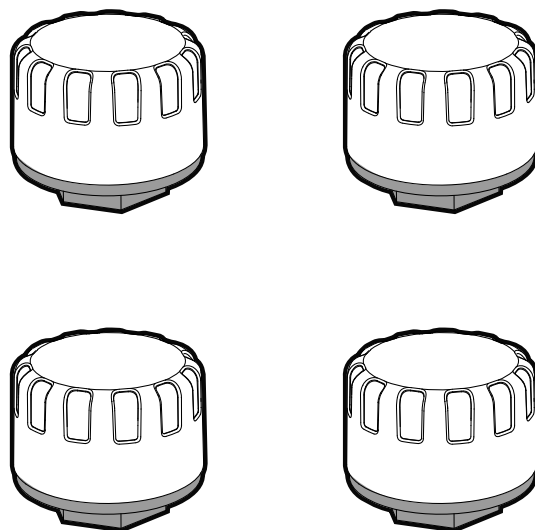
※開梱したら、同梱品がすべてそろっていること、本製品に損傷がないことを確認してください。万一、不足や不良がある場合は、弊社又は、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

【受信モニター】



【送信センサー】(4 個)

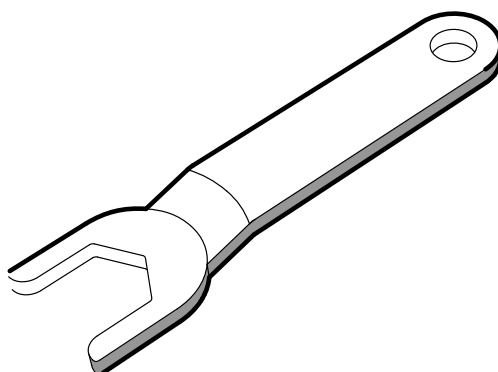
電池を内蔵してます。



【DCプラグ】

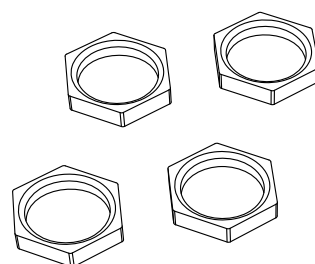


【専用レンチ】



【ナット】(4 個)

※脱落防止用ナット



安全上のご注意

本製品は国内電波法に適合しておりますが、ご使用前に以下の事を確認してください。

- 本製品は無理な操作・使用すると正常に動作しなくなる場合があります。
- 本製品はタイヤのバースト（パンク）を防止するものではありません。万が一バーストしても弊社は一切の責任を負いかねます。
- 本製品は一般公道での使用を前提に設計されており、サーキット走行等の過酷な条件下でのご使用はご遠慮ください。
- 本製品は、トラック、バスなどの大型車、中型車には対応しておりません。
- 運転中に受信モニターの画面をチェックする場合は必ず停車中に行ってください。
- 本製品はセンサー電池の寿命を長くするため（電池の使用量を抑えるため）、一定時間（約10分程度）停車状態が続くと、省電力モードになります。省電力モードは本機を取り付けた車両が時速20km程度以上になると解除され、自動的にセンサーからのデータ送信を行い、データの更新を再開します。
- タイヤ空気圧と温度は、天気や時間、走行する道路のコンディションによって異なります。特に運転直後の受信モニターの数値が変動することは、通常の現象です。
- タイヤ圧力は時間の経過によって自然に減少していくものであり、その減少はこの本機とは無関係です。
- 振動などで送信センサーが外れないようにしっかりと取り付けてください。日常点検や定期点検で送信センサーの緩み、タイヤ目視による確認を併用して頂くようお願いいたします。
- 送信センサー取り付け時はセンサーを奥までしっかりと締めてください。ただし、きつく閉めすぎるとバルブやセンサーのゴムパッキンに損傷をきたすことがありますので十分に気をつけて装着してください。
- センサーの電池の蓋はねじ山に対してまっすぐであることを確かめて閉めてください。斜めに曲がったまま閉めると蓋が閉まらなくなる場合があります。
- センサーの設置完了後、センサー部から空気が出ないことを石鹼水など使用して確認してください。

空気圧の単位について

純正タイヤの指定空気圧は運転席開口部、または、車両の取り扱い説明書をご確認ください。

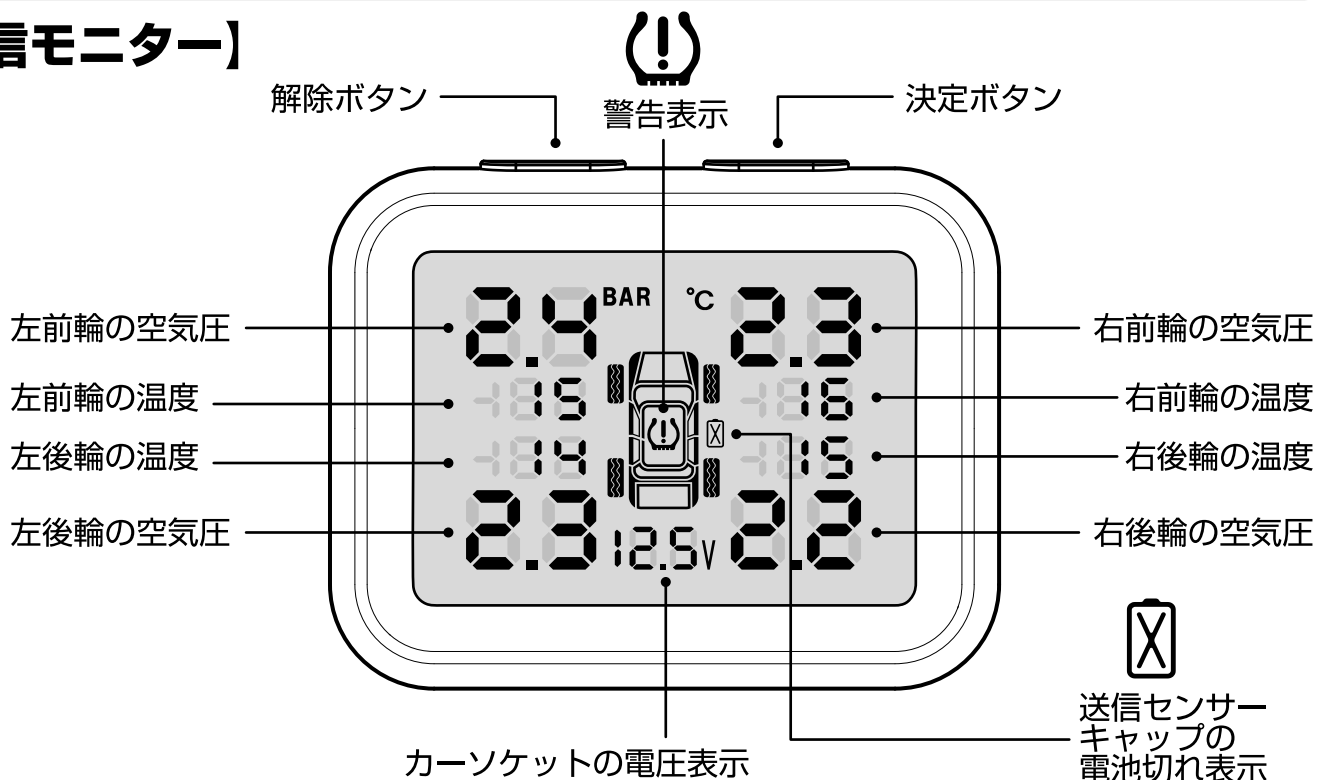
本製品はkPa,kgf/cm²,Psiの単位表示はできません。車両の取り扱い説明書、または、下図の空気圧換算表を参考にしてください。

【単位換算早見表】

Bar	Psi	kPa	kgf/cm ²	Bar	Psi	kPa	kgf/cm ²
1. 1	16	110	1. 1	3. 1	45	310	3. 1
1. 2	17	120	1. 2	3. 2	47	320	3. 2
1. 3	19	130	1. 3	3. 3	48	330	3. 3
1. 4	20	140	1. 4	3. 4	50	340	3. 4
1. 5	22	150	1. 5	3. 5	51	350	3. 5
1. 6	23	160	1. 6	3. 6	53	360	3. 6
1. 7	25	170	1. 7	3. 7	54	370	3. 7
1. 8	26	180	1. 8	3. 8	55	380	3. 8
1. 9	28	190	1. 9	3. 9	57	390	3. 9
2. 0	29	200	2. 0	4. 0	58	400	4. 0
2. 1	30	210	2. 1	4. 1	60	410	4. 1
2. 2	32	220	2. 2	4. 2	61	420	4. 2
2. 3	33	230	2. 3	4. 3	62	430	4. 3
2. 4	35	240	2. 4	4. 4	64	440	4. 4
2. 5	36	250	2. 5	4. 5	65	450	4. 5
2. 6	38	260	2. 6	4. 6	67	460	4. 6
2. 7	39	270	2. 7	4. 7	68	470	4. 7
2. 8	41	280	2. 8	4. 8	70	480	4. 8
2. 9	42	290	2. 9	4. 9	71	490	4. 9
3. 0	44	300	3. 0	5. 0	73	500	5. 0

各部の名称 / 製品仕様

【受信モニター】



タイヤ空気圧・温度表示：タイヤの空気圧 (Bar)・温度が表示します。

警告表示：エア漏れ、空気圧、温度が設定値から外れた場合、異常を検知した空気圧又は温度が点滅し、アラームが鳴ります。※アラーム音は消せません。

製品仕様

【受信モニター】

入力電源：
DC12V
動作温度範囲：
0℃～40℃
計測温度範囲：
-30℃～80℃(公差：±3℃)
空気圧計測範囲：
0～8.0Bar(公差：0.1Bar)
カーソケット電圧計測範囲：
DC9.0V～16.0V
製品寸法 / 製品重量：
W45×H35×D27mm
製品重量：
50g ※DC プラグ含む
コード長：
約150cm

【送信センサー】

送信周波数：
429.5MHz ※電波法認証品
送信距離：
30m
※車種によって、送信距離は異なります。
電源：
BR1225 又は CR1225 電池 ×4 個
動作温度範囲：
-20℃～60℃
送信センサーバルブの IP 等級：
IP67
製品寸法
W18 × H15 × D18mm
製品重量：
5g ※電池含む
連続使用日数：
約 4 ヶ月
※使用環境により異なります。
※付属の電池はモニター電池です。

取付け位置について

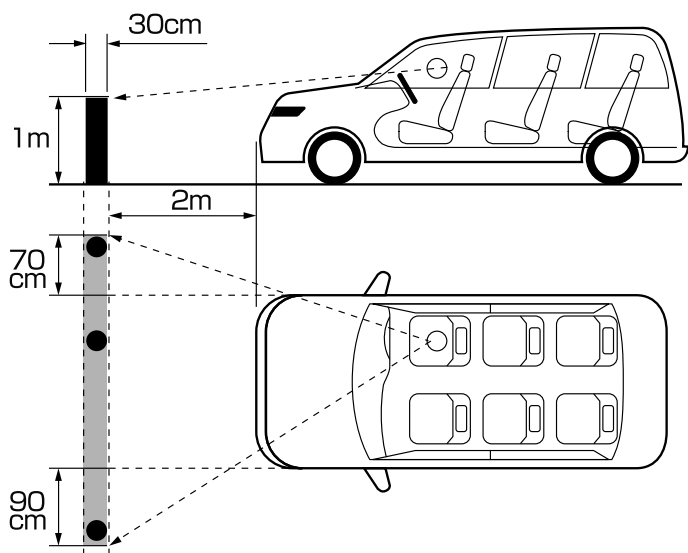
【受信モニターの取付け位置】

国土交通省の定める保安基準に適合させるため、下図のように、運転者の視界を妨げないように本製品を取り付けてください。また、フロントガラス、側面ガラスへの取り付けは保安基準に不適合となりますので、絶対におやめください。下図は右ハンドル車の例です。左ハンドル車の場合、左右逆になります。

前方視界基準

<基準概要>

自動車の前方 2m にある高さ 1m、直径 30cm の円柱を鏡等を用いず直接確認できること。

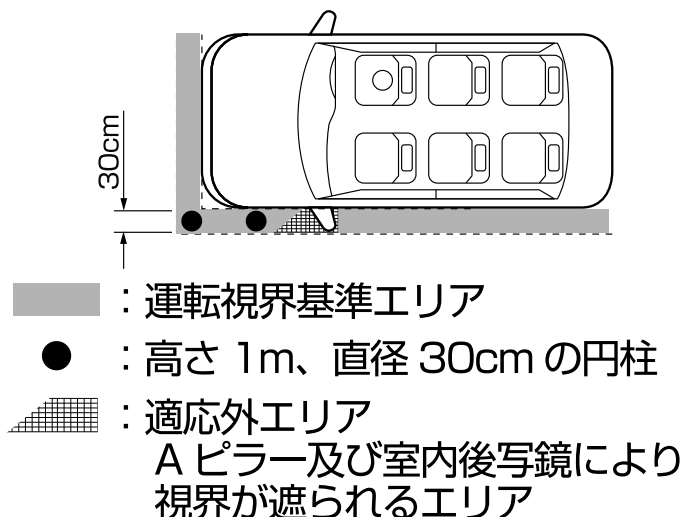


※2023 年 12 月現在

直前直左視界基準

<基準概要>

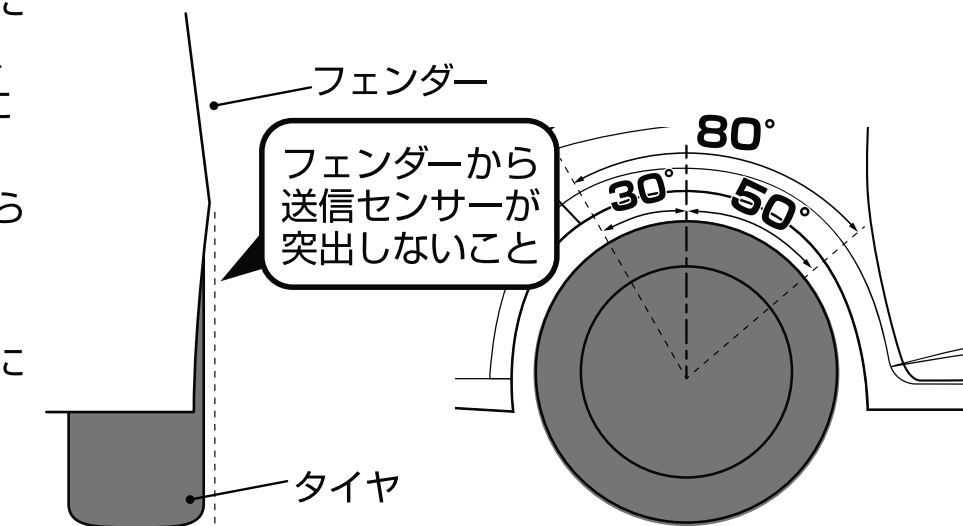
自動車の前面及び左側面（左ハンドル車にあっては右側面）に接する高さ 1m、直径 30cm の円柱を鏡等を用いず直接確認できること。



【送信センサーの取付け位置】

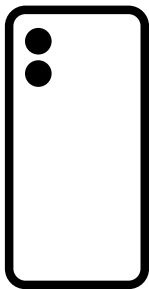
国土交通省の定める保安基準に適合させるため、図のように、ホイールの中心より 80° 内に（前方 30° 及び後方 50°）対して、車両のフェンダーから送信センサーが突出しないようにしてください。

スペーサーを取り付けた車両に本製品を取り付けると、保安基準に適合しない場合があります。



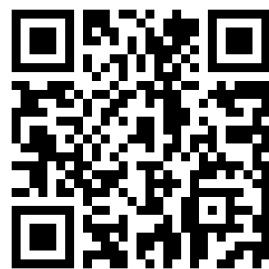
※2023 年 12 月現在

取り付け方法



**スマートフォンより、
取付け方法、設定方法を
動画でご覧いただけます。**

※電話、メール等での取付け作業に関する
対応はできかねます。



【受信モニターの取り付け】

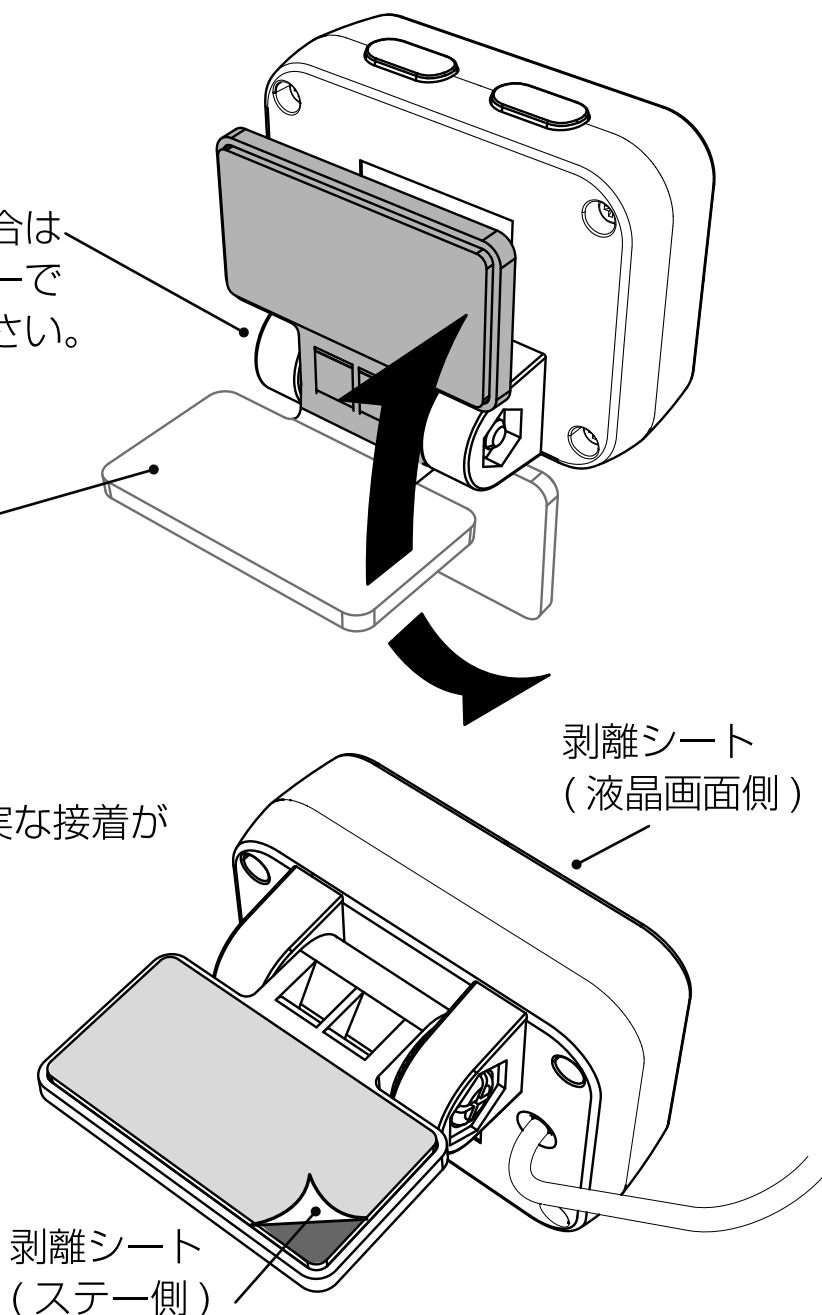
①ステーの角度を調節します。

ステーが緩い場合は
プラスドライバーで
締め付けてください。

ステーを好みの角度に
曲げてください。

②貼り付け場所の汚れや油分を
シリコンオフ等で拭き取ります。

※ホコリや油分等で汚れていると確実な接着が
できません。



③両面テープの剥離シートと液晶画面の剥離シートを剥がし、ステー側を
ダッシュボードに貼り付けてください。

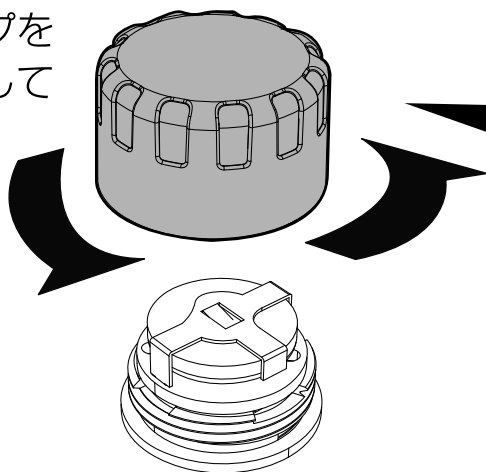
※皮革、布地には貼り付けできません。※取付けによる損傷が生じる場合があります。

【送信センサーの電池を交換する】

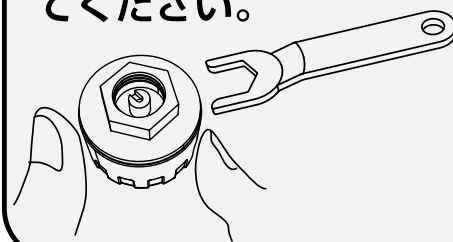
※お買い求めの際は、送信センサーに電池が入っておりますので、そのまま利用いただけます。

※受信モニターに電池交換のマークが表示されたら、全ての電池を交換することをおすすめします。

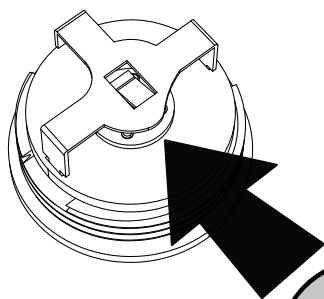
- ①センサーキャップを
反時計周りに回して
外してください。



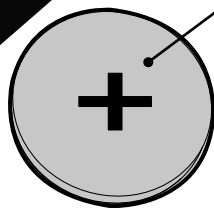
回しにくい場合は、
センサーキャップを持ち、
付属の専用レンチで回し
てください。



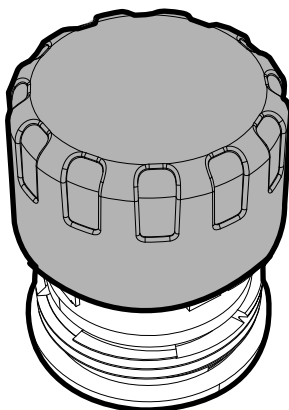
- ②BR1225 又は CR1225
電池を+面を上にして
奥まで差し込みます。



+ (プラス) 面を上にして
奥まで差し込みます。



- ③センサーキャップを
時計回りに回して
しっかりとすき間なく
閉めてください。

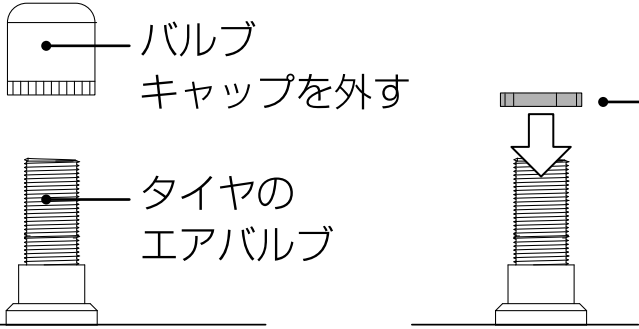


注意！

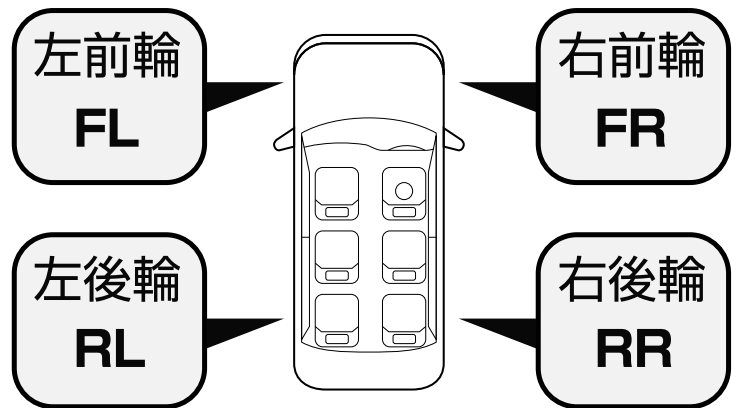
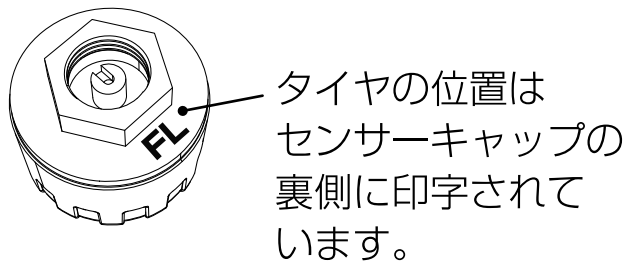
センサーキャップの締め
付けが緩いと水が浸入し、
故障の原因となります。

【送信センサーをタイヤに取り付ける】

※送信センサーを装着の際、バルブに水分が付着した状態で装着すると、送信センサーが故障する恐れがあります。装着部をしっかりと乾燥させてから取り付けてください。

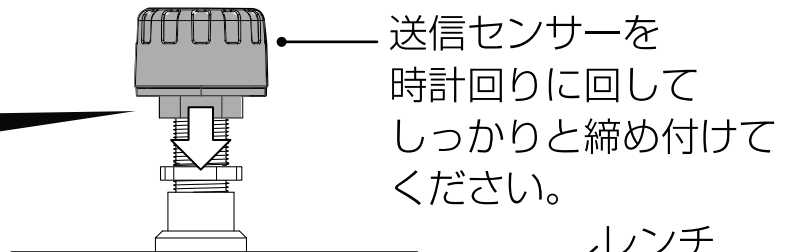
- ①タイヤのバルブキャップを外し、ナットの奥まで挿入してください。
- 
- バルブ
キャップを外す
- タイヤの
エアバルブ
- ナットを
時計回りに回して
バルブの奥まで
回してください。

- ②4 個の送信センサーを指定の箇所に
取り付けてください。送信センサーを
しっかりとタイヤのバルブに装着され
ていないと空気が漏れます。

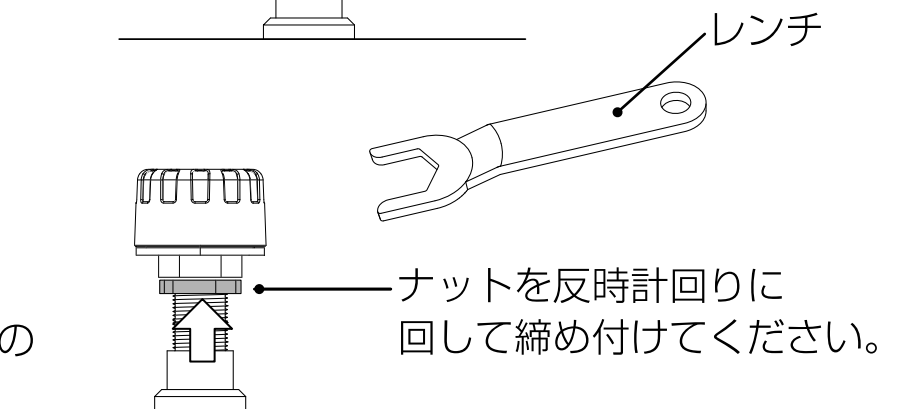


注意！

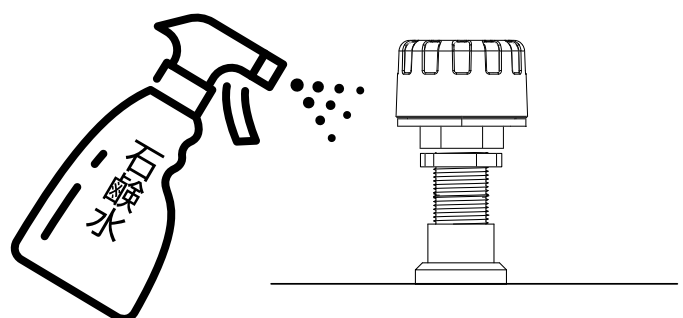
送信センサーの締め付け
が緩いと空気が漏れる音
がします。



- ③付属の専用レンチを使って、
ナットを反時計回りに
回して締め付けてください。
※締め付けが緩いと送信センサーの
脱落の原因になります。



- ④バルブと送信センサーの付近に
石鹼水をかけて、空気漏れがないか、
確認をしてください。



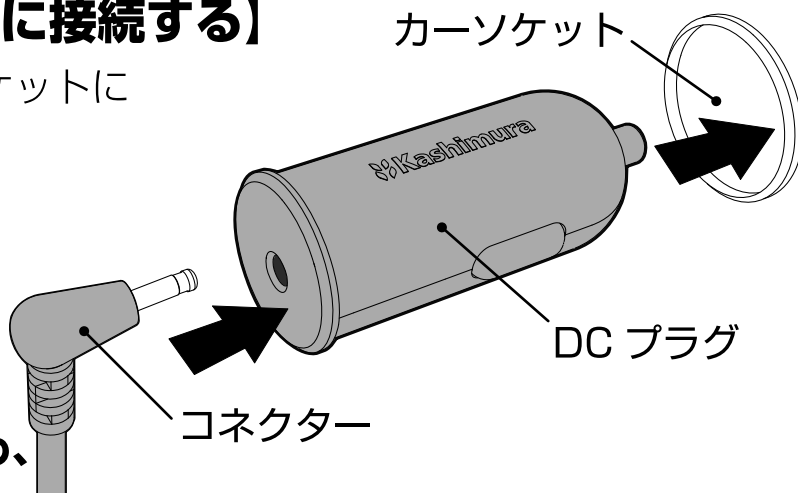
【受信モニターをカーソケットに接続する】

①本製品の DC プラグを車のカーソケットに差し込んでください。

※カーソケットの形状が特殊な車（外車及び一部国産車）では使用できない場合があります。

※本製品は12V 専用となります。
24V 車ではご使用になれません。

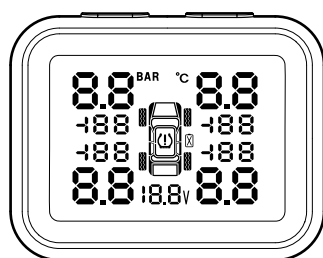
※コードがアンテナとなっているため、コードは束ねないでください。



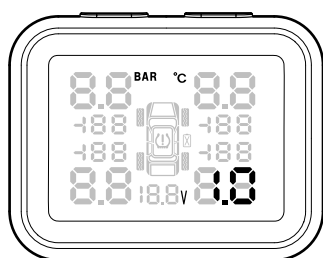
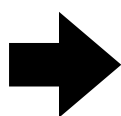
②表示画面に前回の数値（工場出荷時）が表示されます。時速 20km以上になると自動的に空気圧とタイヤ温度を更新して表示します。

※起動画面を非表示にすることはできません。

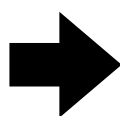
※起動画面は出荷時期によって、図と異なる場合がございます。



起動画面



ソフトウェア ver. 表示
（約 3 秒間表示）



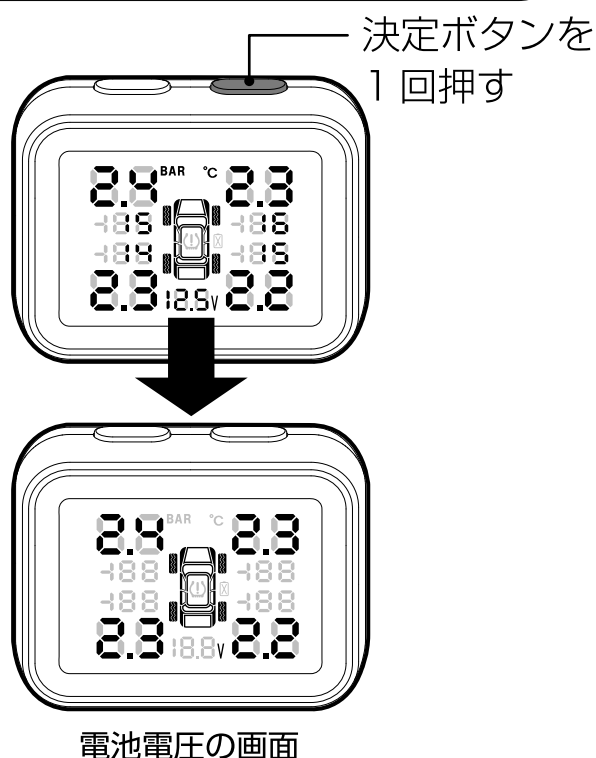
メイン画面

送信センサーの電池電圧を確認する

①メイン画面の状態から、決定ボタンを 1 回押します。

②送信センサーの電池電圧が表示します。

③決定ボタンを 1 回押すか、しばらくの間、そのままにしておくとメイン画面に戻ります。



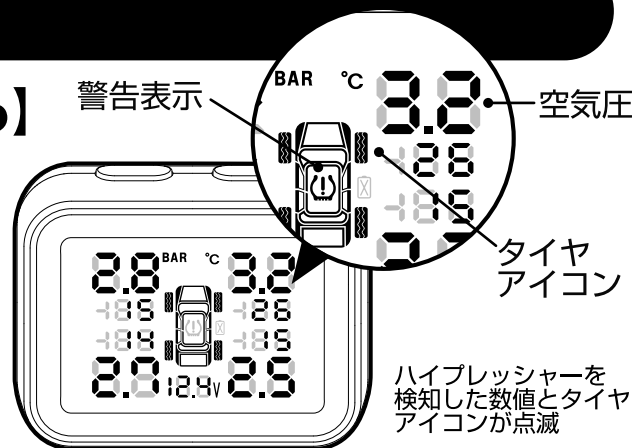
設定方法

【ハイプレッシャーアラームを設定する】

ハイプレッシャーアラームとは、走行中のタイヤの状態、温度上昇により、設定した空気圧を越えるとアラームでお知らせする機能です。

※初期設定値：3.1 Bar

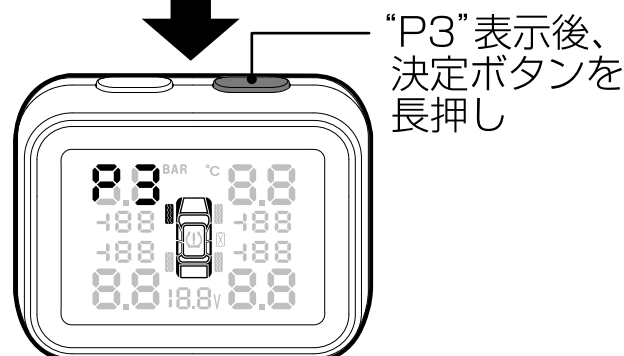
※設定範囲：1.9～8.0 Bar



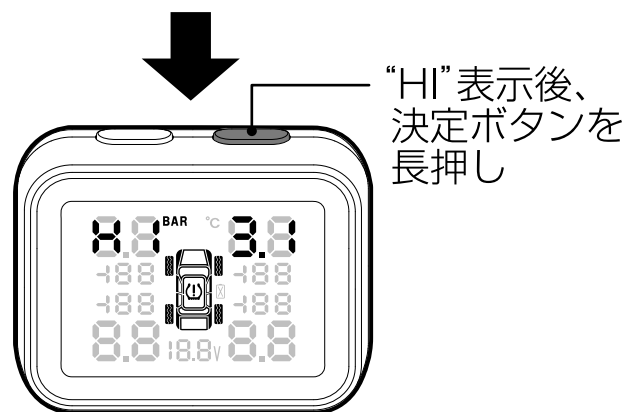
- ①決定ボタン（右側のボタン）をピッと音になるまで長押しすると、画面に“P1”と表示します。



- ②決定ボタンを2回押して、“P3”と表示後、決定ボタンを長押ししてください。



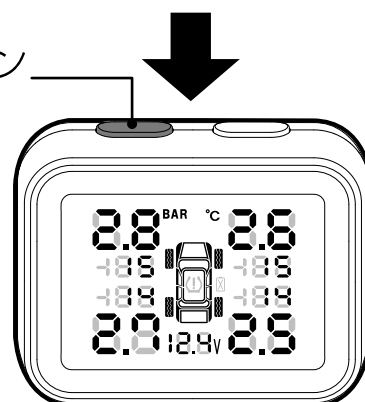
- ③“HI”と表示したら、決定ボタンを長押ししてください。



- ④空気圧数値が点滅したら、決定ボタンを押して設定したい値にした後、決定ボタンを長押しすると、設定が完了します。

解除ボタン
数回押し

- ⑤しばらくの間、そのままにしておくか、解除ボタン（左側のボタン）を押してメイン画面に戻してください。

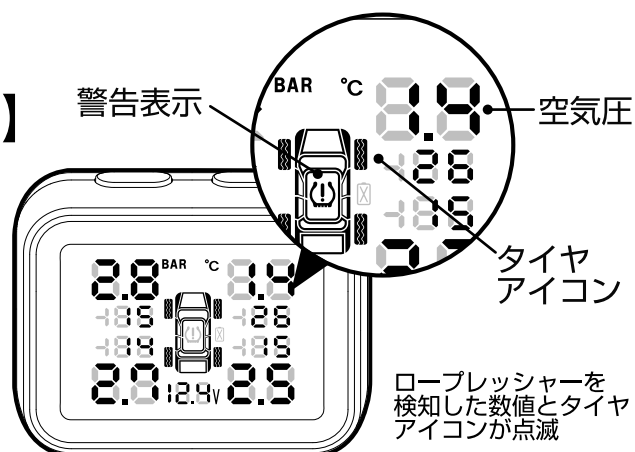


【ロープレッシャーアラームを設定する】

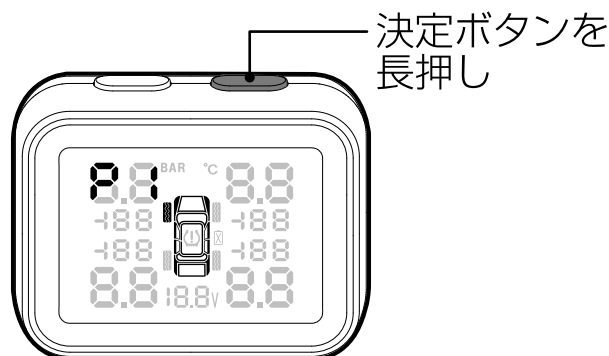
ロープレッシャーアラームとは、走行中のタイヤの状態、温度上昇により、設定した空気圧より下がるとアラームでお知らせする機能です。

※初期設定値：1.8Bar

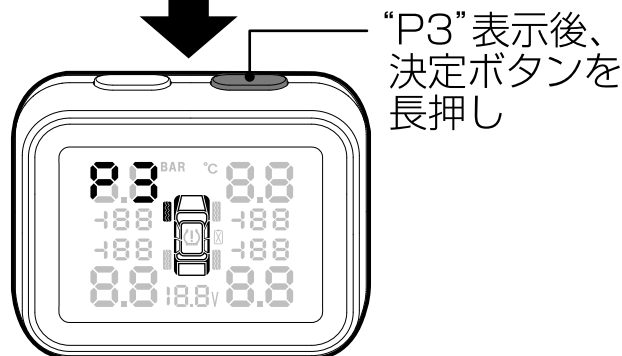
※設定範囲：0.2～3.3 Bar



- ①決定ボタン（右側のボタン）をピッと音になるまで長押しすると、画面に“P1”と表示します。

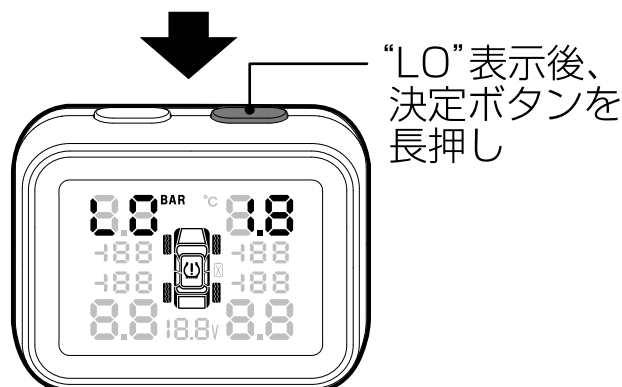


- ②決定ボタンを2回押して、“P3”と表示後、決定ボタンを長押ししてください。



- ③“HI”と表示したら、決定ボタンを1回押してください。

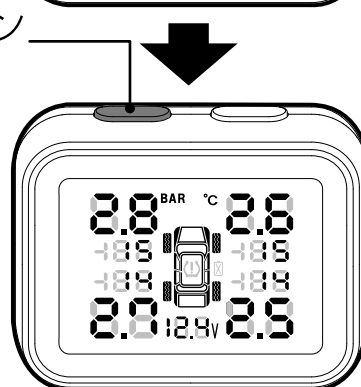
- ④“LO”と表示したら、決定ボタンを長押ししてください。



- ⑤空気圧数値が点滅したら、決定ボタンを押して設定したい値にした後、決定ボタンを長押しすると、設定が完了します。

- ⑥しばらくの間、そのままにしておくか、解除ボタン（左側のボタン）を押してメイン画面に戻してください。

解除ボタン
数回押し



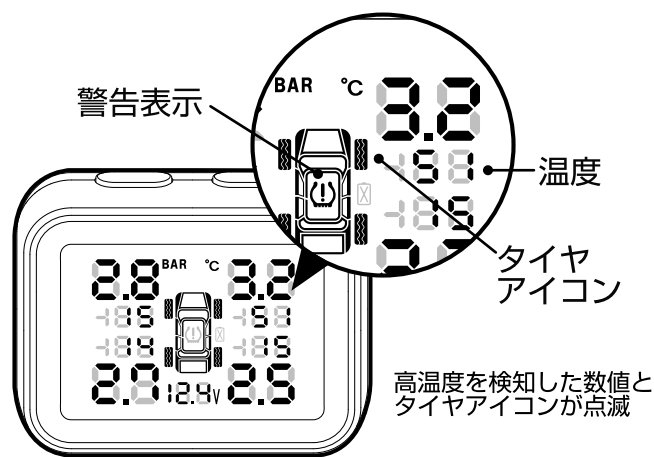
※各種アラームを設定する場合、“P3”表示後に決定ボタンを長押し、“HI”が表示後に決定ボタンを押すと“LO” “温度”表示に切り替わります。

【温度アラームを設定する】

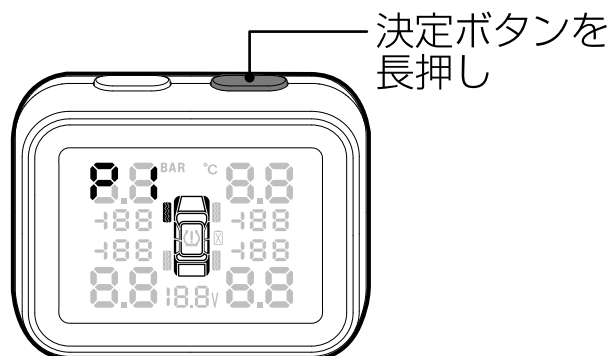
温度アラームとは、走行中のタイヤの状態、温度上昇により、設定した温度を越えるとアラームでお知らせする機能です。

※温度アラームを OFF にすることはできません。

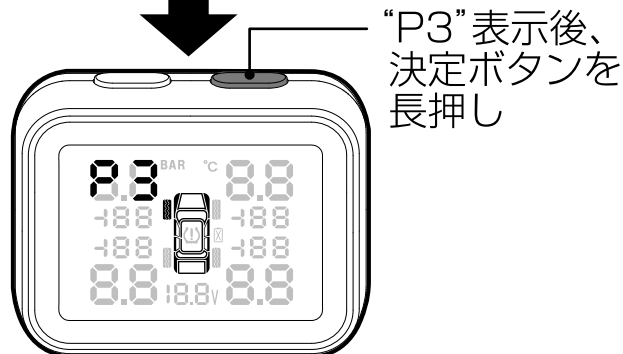
※初期設定値：80℃
※設定範囲：30～80℃



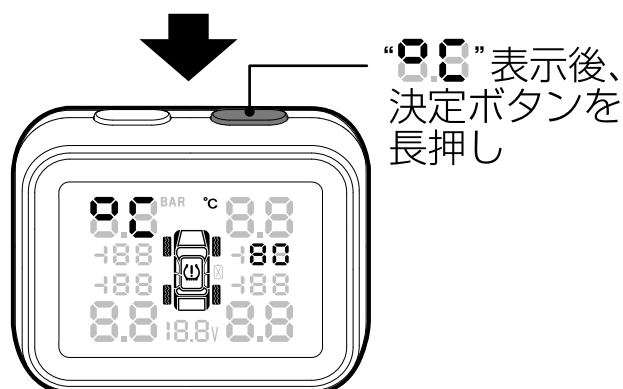
- ①決定ボタン（右側のボタン）をピッと音になるまで長押しすると、画面に“P1”と表示します。



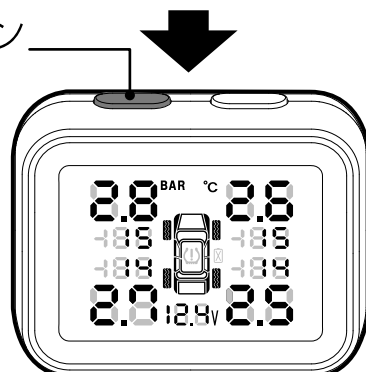
- ②決定ボタンを2回押して、“P3”と表示後、決定ボタンを長押ししてください。



- ③“HI”と表示したら、決定ボタンを2回押してください。



- ④“88”マークが表示したら、決定ボタンを長押ししてください。



- ⑤温度数値が点滅したら、決定ボタンを押して設定したい値にした後、決定ボタンを長押しすると、設定が完了します。

- ⑥しばらくの間、そのままにしておくか、解除ボタン（左側のボタン）を押してメイン画面に戻してください。

カーソケットの電圧表示

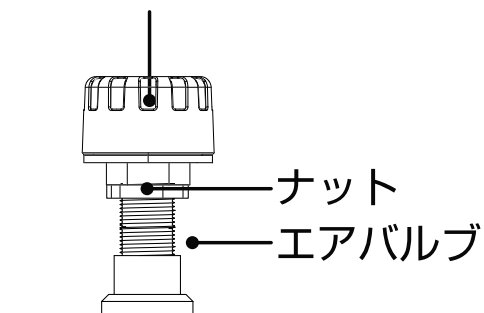
カーソケットの電圧をモニターすることができます。
※車のバッテリー状態によって、通常時とエンジン始動時で電圧の違いがあります。



カーソケットの
電圧表示

メンテナンスについて

送信センサー



降雪エリアでご使用の場合、融雪剤が送信センサーとナットに固着して送信センサーが外れなくなる可能性があります。

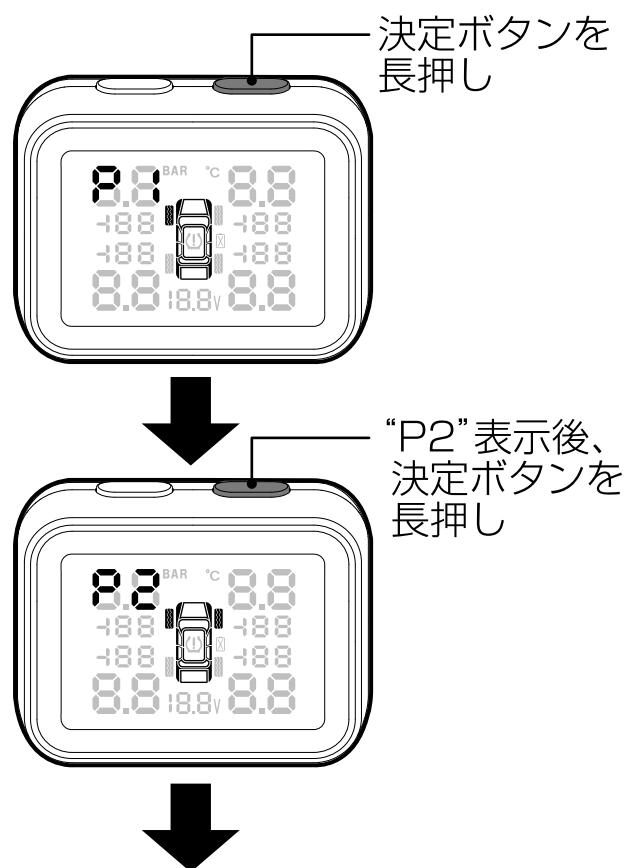
定期的にエアバルブから送信センサーとナットを外し、融雪剤、その他の汚れを取り除いてください。

設定方法

【送信センサーの位置を変更する】

※送信センサーキャップを取り付け後、車内からセンサーバルブの表示位置を変更したい時に設定する機能です。お買い求めの際に、必ず設定する機能ではございません。

- ①決定ボタン（右側のボタン）をピッと音がなるまで長押しすると、画面に”P1”と表示します。
- ②決定ボタン1回押して、”P2”と表示後、決定ボタンを長押ししてください。
- ③決定ボタンを押して設定したい位置に変更した後、決定ボタンを長押しすると、設定が完了します。
- ④しばらくの間、そのままにしておくか、解除ボタン（左側のボタン）を押してメイン画面に戻してください。



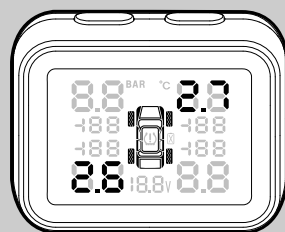
左前輪、右前輪の
位置を変更



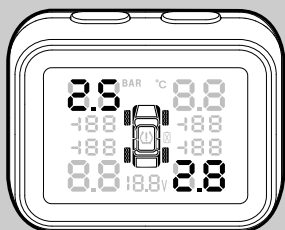
左前輪、左後輪の
位置を変更



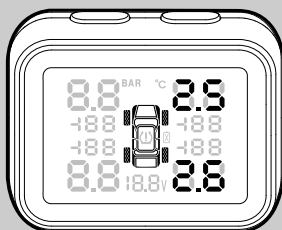
左後輪、右前輪の
位置を変更



左前輪、右後輪の
位置を変更



右前輪、右後輪の
位置を変更



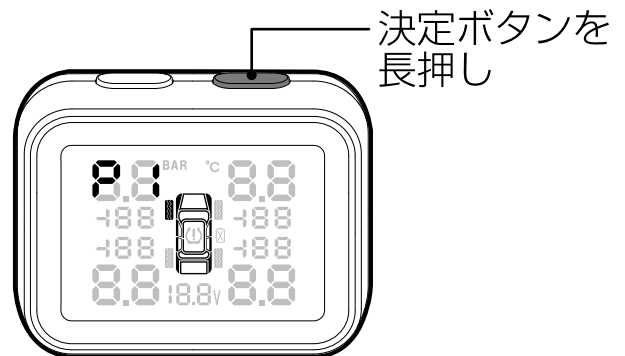
左後輪、右後輪の
位置を変更



【送信センサーの登録する】

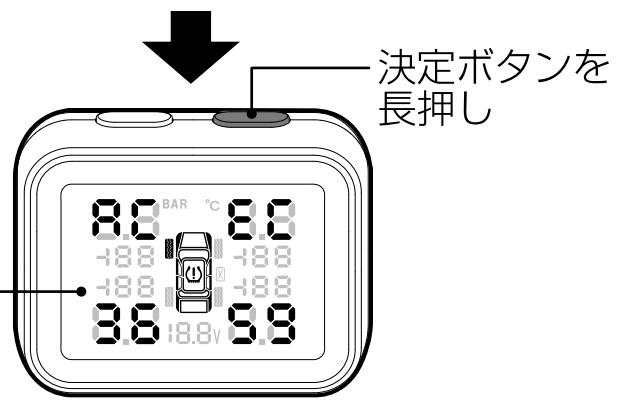
※送信センサーキャップ紛失した時に設定する機能です。
電池交換時やお買い求めの時には登録は不要です。

- ①決定ボタン（右側のボタン）をピッと音になるまで長押しすると、画面に”P1”と表示します。

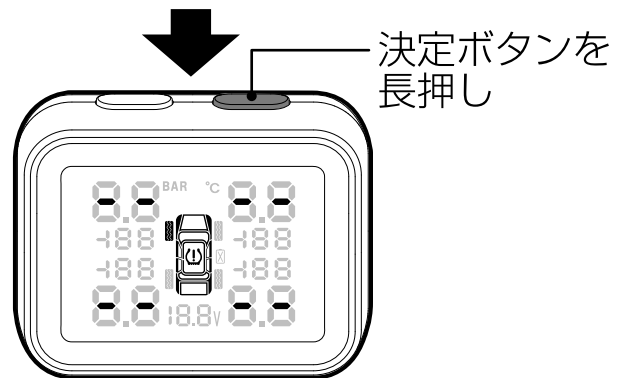


- ②センサーのID 番号が表示した後、決定ボタンをピッと音になるまで長押ししてください。

センサーのID 番号
※ID 番号はセンサーによって異なります。

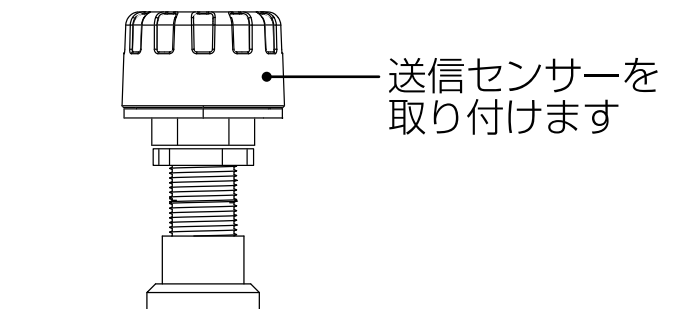


- ③決定ボタンを数回押して、再登録したいタイヤのアイコンが表示したら、決定ボタンを長押しして、”-” 表示にします。



- ④登録したい送信センサーをタイヤに取り付けてください。

- ⑤電子音になったら登録完了です。



- ⑥解除ボタン（左側のボタン）を押してメイン画面に戻してください。

故障かな？と思ったら

以下の処置をしても解決しない場合は事故防止の為、使用を中止しお買い上げの販売店または弊社までご相談ください。

症 状	考えられる原因	処 置
受信モニターに数値が表示されない	車のエンジンが OFF になっている	車のエンジンを ON してください
受信モニター に数値が更新されない	センサーキャップを取付け後、走行していない	時速 20km 以上の走行をしてください 走行することで、送信センサーが ON の状態となり、受信モニターに情報が更新されます
	受信モニターに電池マークが表示している 送信センサーキャップの電池が切れている	送信センサーキャップの電池を交換してください
	コードを束ねている	コードがアンテナとなっているため、コードを束ねないでご使用ください
警告アラームが鳴る	ハイプレッシャーアラームの設定値より、空気圧が超えている	タイヤの状態の確認してください ハイプレッシャーの設定値を見直してください。
	ロープレッシャーアラームの設定値より、空気圧が下がっている	タイヤの状態の確認してください。 ロープレッシャーの設定値を見直してください
	温度アラームの設定値より、高音になっている	タイヤの状態の確認してください 温度アラームの設定値を見直してください。
送信センサーから 空気が漏れる音がする	センサーキャップの空気が漏れている	タイヤの状態の確認してください 送信センサーの取付けに緩みがないように締め付けてください
しばらく走行したら、 センサーの数値が 上昇した	外気温の上昇、日射で高温となった路面を走行することにより、タイヤ内の空気圧が上昇した	タイヤの状態の確認してください 故障ではありません
	車種によって、前輪と後輪のタイヤに掛かる重量配分が違いため、空気圧が変動する場合があります	
特定のセンサーと受信モニター の表示がおかしい	送信センサーキャップの電池が切れている	念のため、電池の交換をお試しください
	受信モニターと送信センサーが接続されていない	対象の送信センサーの再登録をお試しください
		対象の送信センサーの外し、再装着をお試しください